

福岡女子大学附属図書館ニュース

図書館、美術館、ラーニング・コモンズの情報をお届けします

Fukuoka Women's University Library News

2024.3

32



Contents

- 1 表紙
- 2 不思議空間の時間旅行へ(宮川 美佐子)
- 3 企画展示
- 4 ラーニング・コモンズNews
- 5 TOPICS
教員著作コーナーより
- 6 学生委員の活動紹介
図書館部門の活動紹介
- 7 美術館部門の活動紹介
- 8 ランゲージ・カフェ活動をベースにした
“学生自身による企画発信元年”となった2023年度(金光 真美)
附属図書館の1年



不思議空間の時間旅行へ

附属図書館長(国際教養学科 教授) 宮川 美佐子

附属図書館が図書館部門と美術館部門の二部門体制になって、五年が過ぎようとしています。それ以前の学術情報センターという名前がいかに硬質な響きを持っていたのに対し、美術館と一体となった図書館というのは、やわらかな感性との関わりを想起させます。美術館の領域は本学キャンパスの広い範囲に渡るものですが、図書館にもいくつもの彫刻が点在しており訪れる人に訴えかけてきます。今年度は本学の開学百周年を記念して田代雄一先生の動物彫刻が加わり、ハシビロコウやムササビや子犬が中二階で来館者を和ませています。

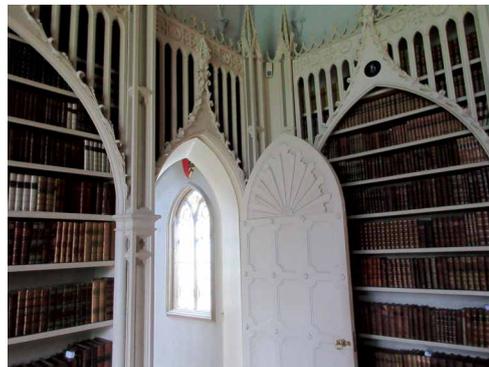
芸術が感覚だけのものではなく分析的知性の対象であるのに似て、図書も知性だけのものではなくモノとして美的な興味を呼び起こすことがあります。本学の誇る卒業生である森崎和江さんの蔵書が資料として公開されたのは今年度の図書館の大きなニュースですが、ずらりと並ぶ図書の列は森崎さんの面影が形になり後輩を励ましているかのようです。昨秋から一階で展示されている企画「西洋書物の美と歴史」も、書物の魔法を実感させてくれるでしょう。実体のある空間としての図書館の意義をあらためて思います。

多くの文系研究者同様、図書館の思い出は私にもたくさんあります。百年以上前の本に囲まれる学生時代の薄暗い迷宮のような文学部の図書館、明治の建物が美しく、年中寒かった京都府立図書館、ロンドン大学のセネット・ハウス、郷里にある湖畔の図書館などなど。しかしこの文章を書くにあたって強く甦ってきたのは、何の変哲もない小学校の図書室です。初めて入った図書室の本は、時に騒がしく、押しつけがましさを感ずるところもある書店と違って「私を読むかどうかはあなた次第ですよ」と静かに待っていてくれたようでした。目に留まったのは、少し奥にあるいくつかの棚を上から下まで占めていた小学館の『少年少女世界の名作文学』という全50巻の全集でした。文学全集というものの自体、今ではほとんど目にしませんが、当時は教養の証として一般家庭でも一揃い置いてあることがよくありました。世界の全体像を把握したいという成長期の日本の向上心、あるいは貪欲さの表れだったとも言えるでしょう。その子供版だった件の全集は、分厚い背表紙の国ごとに異なる色の地に収録作の題が刻まれ、その国を表す絵が金箔で印されていました。イギリス編は暗紅色に帆船、フランス編は紺青に凱旋門といった具合です。あの背表紙の迫力がなかったら手に取らなかったかもしれません。本棚から抜き出すと表紙には世界の名画、そして中には民話や児童文学から大人向けの小説の再話まで、未知の豊かな世界が広がっていました。『白鯨』や『罪と罰』まで入っていたのは無茶にも思えますが、手抜きのない貴重な出会いでした。日本編では『椿説弓張月』が無性に面白かったのを覚えています。その後大学で専攻を選ぶまで、とくに文学を究めたいと志したわけではなかったものの、今思うとあの全集が大切な道標となっていたような気がします。図書館は千年以上前からの世界の声を届けてくれる特別な空間だったのです。



社会人になってから古本市で入手した一冊

コロナ禍の間、図書館も人影はまばらで、閲覧された図書は一冊一冊職員が消毒するという日々が続きました。この間デジタルサービスも進み便利になった一方で他の利用者の顔は見えないままでした。今年度は通常の運営となり、来館者も戻りつつあります。ふと周りを見渡すと、それぞれの目的で本に向き合っている人たちがいることで、言葉を交わさずとも同じ空間を共有する安心感を覚えます。ラーニング・コモンズに行けば、他の学生と実際に協働する活動もできます。将来、図書もさらにデジタル化が進み美術館もヴァーチャルツアーで事足る時代が来るかもしれません。しかし今は、生身の他者の息遣いを感じながら図書や美術品に触れつつ、一度しかない学生時代を過ごしてほしいと思います。私の場合は文学でしたが、図書館・美術館・ラーニング・コモンズの知・美・動の間で、学生の皆さんがそれぞれ自分が夢中になれるものを見つけられるよう願っています。



ゴシック文学とネオゴシック建築の創始者
ウォルボールの邸ストロベリー・ヒルの書斎

企画展示

図書館企画展示 洋画家・野見山暁治氏をめぐる物語

2023年6月、福岡県出身の洋画家・野見山暁治氏が102歳で逝去されました。野見山氏への追悼の意を込めて、図書館1階受付そばにて、企画展示「洋画家・野見山暁治氏をめぐる物語」を開催しています。

現代日本を代表する洋画家として広く知られ、2014年に文化勲章を受賞した野見山氏は、100歳を超えても制作を行う姿が多くメディアで取り上げられる等、晩年まで精力的に活動を続けました。本企画展示では、野見山氏の人生を色濃く映し出す著書の数々や関連書籍を展示しています。

図書館1階ゲートを出てすぐの壁面に飾られている絵画作品3点は、2023年1月に本学に寄贈された野見山氏の作品です。本企画展示とあわせてぜひご覧ください。



図書館企画展示 西洋書物の美と歴史

本学美術館にて2023年10月23日から12月28日の期間に開催された、スタヂオポンテカリグラフィー作品展「文字の表情～羽ペンから活字書体へ～」にちなみ、西洋書物史における装飾写本の変遷、印刷技術や出版の歴史等に関わる図書を展示しています。

まだ印刷技術も発明されておらず、今日のように識字率も高くなかった時代、書物は芸術作品と同等の貴重な価値をもっていました。そのような時代にルーツをもつカリグラフィーの伝統は、文字や言葉があらゆる場所に氾濫している現代においても、シー

ズナルカードや広告デザイン等の様々な媒体の中にひっそりと息づいています。時代を超えて受け継がれてきた深遠な西洋書物の世界をぜひご堪能ください。



図書館企画展示 「Books meet you」

昨年12月より図書館1階にて、図書館部門学生委員による企画展示「Books meet you」(*)を開催しています。図書館を訪れる学生達に本との素敵な出会いを提供したいという学生委員の思いから発案された本企画では、装丁がポップで可愛い本や近年話題になった本等、学生委員が時間をかけて厳選した本を集めて展示し



ています。

本企画では来館者が展示されている本の感想を共有したり、お薦めの本を伝え合うことが出来るよう、「シェアブース」と題するホワイトボードも設置されています。学生委員の素敵なアイデアが散りばめられた展示コーナーをぜひ一度ご覧ください。

(*)企画展示の様子は、p.6「図書館部門の活動紹介」でも紹介しています。



美術館 第7回春の企画展 さかいようこ「人間と核」展

人間と核との関係性を主要なテーマとして作品制作を続けるアーティスト・さかいようこ氏による企画展が、2023年4月21日から6月30日の期間、本学美術館にて開催されました。期間中に開催された本学創立



100周年を祝う「ホームカミングデー」にて、多くの同窓生の皆様に作品をご鑑賞いただいた他、複

数の新聞社から取材を受ける等、本企画展は学内外から大きな注目を集めました。

本学卒業生でもあるさかい氏のご自宅を訪れてインタビューを行い、その記事を美術館ホームページにて公開する等、本企画展では美術館部門学生委員も企画運営に携わりました(※1)。下記(※2)のURLより、インタビュー記事をぜひ一読ください。

(※1) 学生委員によるインタビューの様子は、p.7「美術館部門の活動紹介」でも紹介しています。

(※2) 美術館ホームページ

URL: <https://sites.google.com/fwu.ac.jp/fwumoa/home>

美術館 秋の特別展 スタヂオポンテカリグラフィー作品展 「文字の表情～羽ペンから活字書体へ」

2023年10月23日から12月28日の期間、本学美術館にてスタヂオポンテカリグラフィー作品展「文字の表情～羽ペンから活字書体へ～」が開催されました。国内外で活躍するカリグラファー・初島さつき氏の作品や初島氏が主宰する教室「スタヂオポンテ」のメンバーの作品、また中世の装飾写本の複製や古い時代の貴重なカリグラフィー道具等が展示され、ご来館いただいた多くの方々にご好評いただきました。本学学生や教員が選んだ英語圏の出版物の一冊

をカリグラフィーで表現した作品が複数展示された他、初島氏によるトークイベント、参加型の体験イベント「カリグラフィーでクリスマスカードを書いてみよう」等も開催され、本展示会は盛況のうちに幕を閉じました。





図書館1階にある本学の新たな学びの場「ラーニング・コモンズ」をご存知ですか？

複数の学生や教員がつどい、主体的に学習活動を行うことのできる「ラーニング・コモンズ」は、様々なテーマについてのディスカッション、プレゼンテーションの練習、また語学の練習など、幅広い学習スタイルを可能にする空間です。机や椅子のレイアウトを変更し、ミニ講演会や公開講座等、小規模なイベントの開催も可能です。

「ラーニング・コモンズNews」第8回目の今回は、いくつかの活用事例を紹介しします。このような事例を参考にいただき、皆さんそれぞれの学習スタイルを創造してみてください。

「女性トップリーダー育成研修」が開催されました

本学女性リーダーシップセンター主催の「女性トップリーダー育成研修」の2日目のプログラムとして、「アート思考」の第一人者である若宮和男氏をお招きし、講義やワークショップが開催されました。将来トップリーダーとなることを目指す社会人女性を対象とする本研修では、本学の図書館・美術館



がふんだんに活用され、参加者が和気あいあいとした雰囲気の中でワークショップに取り組んでいる様子がとても印象に残りました。参加者がそれぞれに、図書館や美術館に展示されている彫刻や絵画の中から気になる作品を選んで写真を撮り、その写真をもとに短いストーリーを創作して発表するというワークショップは特に盛り上がり、感嘆の声や笑い声が絶えない充実した時間となりました。

壁面がガラス張り天井が高く、開放的な雰囲気をもつラーニング・コモンズは、研修やワークショップ等を行うのに最適です。机や椅子のレイアウト等を変更し、様々なイベントを行うことが可能ですので、ぜひご利用ください。



図書館部門学生委員企画「ニュースで世界を知ろう!」を開催しました

ラーニング・コモンズのソファ席にて、図書館部門学生委員発案の「ニュースで世界を知ろう!」と題するイベントを開催しました(※)。普段新聞を読まない学生に新聞を読むきっかけを与えたいとの思いで発案され、2回に分けて開催された本イベントでは、第1回目を「国内ニュース編」、第2回目を「国際ニュース編」と題し、様々な内容の新聞記事について参加者同士でディスカッションを行いました。

本イベントは参加人数が少なかったこともあり、向かい合うソファ席に参加者全員が座り、アットホームな雰囲気の中で開催されました。企画を発案した学生委員が、イベントが盛り上がるように工夫しながら当日の司会進行を行ったことも功を奏し、時間があっという間に過ぎてしまうような盛況の会となりました。

ラーニング・コモンズのソファ席は、少人数でのグループ学習や打ち合わせ等にお薦めです。ぜひご利用ください。

(※)イベントの様子は、p.6「図書館部門の活動紹介」でも紹介しています。



美術館部門学生委員企画として映画上映会 & トークイベントを開催しました

美術館部門学生委員の企画・発案により、西山夏実氏の映画「今日も明日も負け犬」の上映会や西山氏のトークショーを開催しました(※)。ラーニング・コモンズでの映画上映会は初めての試みでしたが、学生委員と美術館部門の教職員とで準備を進め、無事に開催の日を迎えることが出来ました。またトークショーは、司会進行を担当する学生委員と西山氏とで会話が盛り上がり、終始笑いの絶えない楽しい雰囲気の中で幕を閉じました。



今回のイベントは学生委員の活動の一環として開催されましたが、学生委員の活動に限らず、本学学生・教職員ならどなたでもラーニング・コモンズを活用したイベントを開催することが可能です。ご興味のある方は、図書館部門職員にお気軽にご相談ください。

(※)イベント概要についてはp.7「美術館部門の活動紹介」をご参照ください。



森崎和江文庫の公開について

本学の前身である福岡県立女子専門学校の卒業生で、詩人・作家の森崎和江氏（1927-2022）の蔵書約 2,200 点が、2020 年 1 月に本学に寄贈されました。それらの蔵書をまとめ、本学創立 100 周年を迎えた 2023 年 4 月に「森崎和江文庫」として図書館 中 2 階にて公開しました。

森崎氏は、1947（昭和 22）年に本学の前身である福岡県立女子専門学校を卒業し、その後福岡を拠点に、詩やラジオドラマの脚本、ノンフィクション、ルポルタージュ作品等の幅広い分野で活躍しました。筑豊の炭鉱で働いた女性たちの生きざまを記録した作品『まっくら：女坑夫からの聞き書き』（1961 年）が、2021 年に岩波書店から復刊されるなど、森崎氏の作品は現在でも高い評価を受けています。そのことを裏付けるかのように、2022 年 6 月に逝去された後、多くの新聞に追悼記事が掲載されました。

図書館ホームページでは、森崎和江文庫の蔵書リストを公開しています。また文庫の利用方法、注意事項等についても掲載していますので、図書館ホームページをご参照のうえ、ぜひご利用ください。

【図書館ホームページ URL】

<http://www.fwu.ac.jp/lib/>

「野田宇太郎顕彰会」の皆様 森崎和江文庫をご見学いただきました

2024 年 1 月 18 日に、福岡県小郡市の「野田宇太郎顕彰会」の皆様が森崎和江文庫の見学にお越しになりました。

森崎和江氏は本学を卒業した 2 年後に、詩人の丸山豊氏（福岡県八女郡出身、1915-1989）が詩人・文芸評論家の野田宇太郎氏（福岡県小郡市出身、1909-1984）やその他の詩人と一緒に創刊した詩誌『母音』の同人となっており、森崎和江文庫には丸山氏や野田氏の関連書籍が複数冊所蔵されています。

「野田宇太郎顕彰会」の皆様は、森崎氏の作品や作家活動について詳しい方が多くおられたこともあり、森崎和江文

庫を終始満喫している様子でした。遠方よりお越しいただき、誠にありがとうございました。



図書館に新たに設置された 動物彫刻をぜひご覧ください

本学の創立 100 周年を記念し、図書館中 2 階に動物彫刻家 田代雄一氏の作品が新たに設置されました。可愛らしく生き生きとした表情をもつ作品の数々は、見る者の心を和ませます。「本の森」で暮らす動物達のところへぜひ一度足をお運びください。



教員著作コーナーより



今年度も、本学の先生方が執筆や編集等にたずさわった図書や雑誌をご寄贈いただきました。皆さんもぜひ手に取ってみてください。

石神圭子 准教授

コミュニティ・オーガナイズの理論と実践：
領域横断的に読み解く

室田信一、石神圭子、竹端寛（編）
ISBN 9784641174863 有斐閣 2023年8月

石神圭子 准教授

図録政治学

西山隆行、向井洋子（編）
ISBN 9784335359415 弘文堂 2023年2月

大久保順子 教授

假名草子集成、第69巻

花田富二夫、伊藤慎吾、大久保順子、他（編）
ISBN 9784490307962 東京堂出版 2023年4月

大久保順子 教授

假名草子集成、第70巻

柳沢昌紀、大久保順子、冨田成美、他（編）
ISBN 9784490307979 東京堂出版 2024年2月

大久保順子 教授

和学知辺草：翻刻・注釈・現代語訳

幽林舎散人（著）、中尾友香梨、他（編）
ISBN 9784867660027 文学通信 2023年4月

金希京 准教授

다문화 사회 구현을 위한 한국어교육정책론

金希京（著）
ISBN 9791169020947 이새의 나무 2022年2月

木村貴 教授

エッセンス憲法【新版】

中村英樹、井上亜紀、相澤直子（編）
ISBN 9784589042897 法律文化社 2024年1月

Pathmasiri Jayasena 教授

Odyssey of partnership : 70 years of
Japan-Sri Lanka relations

H.D. Karunaratne（編）
ISBN 9786245873531 Colombo University Press
2022年12月

Pathmasiri Jayasena 教授

地政学から見るスリランカ政治：植民地支配、
分離独立主義と国民統合問題、政治経済危機

Pathmasiri Jayasena（著）
ISBN 9784866922836 大学教育出版 2024年3月

辻信一 教授

捕鯨史：クジラをめぐる国際問題の理解のために

辻信一（著）
ISBN 9784797275049 信山社 2024年1月

長岡真吾 教授

「涙の道」の南部文学：特集

フォークナー協会編集室（編）
ISBN 9784384064698 三修社 2023年4月

橋本直幸 准教授

話題別コーパスが拓く日本語教育と日本語学

中俣尚己（編）
ISBN 9784823411946 ひつじ書房 2023年12月

山根健至 准教授

新自由主義の呪縛と深層暴力：グローバルな
市民社会の構想に向けて

松下列、山根健至（編著）
ISBN 9784623094530 ミネルヴァ書房 2023年3月

渡邊俊 准教授

東北史講義【古代・中世篇】

東北大学日本史研究室（編）
ISBN 9784480075215 筑摩書房 2023年3月

学生委員の活動紹介

本学附属図書館は、2019年度より「図書館部門」と「美術館部門」の二部門体制になっています。それぞれの部門の運営に学生委員(※)が参画し、図書館や美術館を本学学生や教職員、地域の皆様にとってより魅力あふれる場所に変えるべく、様々な活動を行っています。

図書館部門の活動紹介

今年度は2名の学生委員が図書館運営に参画し、月に1回開催される「図書館部門会議」に参加したり、イベントの企画・運営を行ったりする等、様々な活動を行いました。今回は、学生委員の皆さんが関わった企画についてご紹介します。

▶「ニュースで世界を知ろう!」を開催しました

昨年末、2回にわたり図書館1階 ラーニング・コモンスにて「ニュースで世界を知ろう!」(※)と題するイベントを開催しました。第1回目を「国内ニュース編」、第2回目を「国際ニュース編」と題し、事前に選んでおいた候補リストの中から興味深い内容の新聞記事をいくつかピックアップし、その内容について参加学生と一緒にディスカッションを行いました。



企画を発案した学生委員は本企画の開催にあたり、図書館部門職員との事前打ち合わせを複数回実施した他、月に1回開催される「図書館部門会議」にて図書館長・副館長をはじめとする部門委員の協力を仰ぎながら、準備を進めました。また事前に、候補リストにあげた新聞記事の内容に目を通し、ディスカッションが盛り上がるように工夫しながら当日の司会に取り組みました。

第1回目は人集めに苦戦し、参加者は学生2名のみでしたが、その反省を生かして人集めや事前準備等に尽力した結果、第2回目は学生5名の参加があり、ディスカッションも大変盛り上がりました。イベントが始まる前は少し不安な様子だった学生委員も、イベント終了後にはとても充実した表情を見せていました。

(※) イベントの様子は、p.4「ラーニング・コモンス News」でも紹介しています。



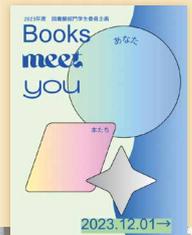
学生委員からのコメント

「ニュースで世界を知ろう!」は、普段新聞を読まない人たちにも新聞を読むチャンスを作って欲しいとの思いから発案した。最初はイベントを行う時間帯を決めることが難しく、参加者が集まるかどうか不安だったが、図書館部門関係者の皆様のご協力のもと、イベントの一回目よりも二回目を、より盛り上がるように工夫できた事がとても嬉しかった。新聞を読むことに興味がある方は、これからも是非チャンスを作って、楽しんで新聞をたくさん読んでください!

次回また自分が企画することがあれば、今回の経験をふまえて、もっと良いイベントを行う事ができるように頑張りたい。
(人文社会科学部研究科博士前期課程2年 馮 林林さん)

▶企画展示「Books meet you」を開催しました

昨年12月より、図書館1階にて、学生委員による企画展示「Books meet you」(※)を開催しています。本展示は、企画した学生委員の周囲に、何か本を読みたいという気持ちはあるが選び方が分からないという学生が多かったことから、そのような学生が本を手取るきっかけになればとの思いで発案されました。装丁がポップで可愛い本や近年話題になった本等、学生委員が時間をかけて厳選した本を集めていることもあり、展示コーナーで足を止め、じっくり本を閲覧している学生が度々見受けられます。企画した学生委員の思惑が当たり、本展示はすでに多くの学生の関心を集めているようです。



企画を発案した学生委員は、掲示用ポスターの作成、展示レイアウトの準備等、企画開催に要するすべての工程に関わり、試行錯誤の末になんとか無事に開催初日を迎えることが出来ました。通常使用されている展示場所(図書館1階BBCコーナーそば)ではなく、図書館棟入り口付近のガラス壁面の辺りに展示コーナーを設置し、図書館の外側からも展示の様子が見えるようにしたり、展示を見た感想や意見を付箋で貼り付けることのできるホワイトボードを設置する等、本展示には企画を盛り上げるための工夫が随所に散りばめられています。皆様ぜひ一度ご覧ください。



(※) 企画展示の様子は、p.3「企画展示」でも紹介しています。

学生委員からのコメント

今年度は「Books meet you」と題し、本選びに困って手が出せない学生をターゲットに企画した。友人にどんな本がいいのかわからないという悩みが多いため、発案した。人目の多い場所での展示や幅広いジャンルを揃え、常時借りられている本があるなど人気があるようで手応えを感じ、非常に嬉しく思っている。しかし未だに享受層は限定的であるため、読書を広める、本の魅力を広めるというのは難しいことだと痛感した。
(国際教養学科2年 塚本 日向子さん)



学生委員の皆さんが1年間の活動を振り返り、「私のリーダーシップ」というテーマで発表を行っている様子。(左から:馮さん、塚本さん)

(※)「学生委員」とは？

本学の「学生委員」に選ばれた学生は、本学教職員で構成される学内の委員会等に参画することにより、組織運営やリーダーシップなど、社会で求められる実践的な知識を学んでいます。

美術館部門の活動紹介

今年度は4名の学生委員が美術館部門の活動に参画し、「美術館部門会議」に参加したり、本学美術館にて企画展を行ったアーティストへのインタビューや映画上映会等のイベントを企画する等、様々な活動を行いました。今回は学生委員の皆さんが関わった企画等についてご紹介します。

▶ アーティスト・さかいようこ氏にインタビューを行いました

本学卒業生であり、国内外の様々な美術展での受賞経験をもつアーティスト・さかいようこ氏(※1)のご自宅を訪ね、インタビューを行いました。インタビューを行うだけでなく、取材内容を記事に起こし、美術館ホームページで公開するまでの一連の作業を、学生委員の手で行いました。インタビュー記事を公開するまでに長い時間を要しましたが、美術館部門長や部門職員等の協力のもと、試行錯誤の末になんとか公開の日を迎えることが出来ました。

学生委員の皆さんは、インタビューを通してさかい氏の作品について理解を深めたことで、その後の作品の見え方が大きく変わったそうです。さかい氏はまた、これまでの経験や生い立ち等についても気さくにお話ししてくださり、今回の経験は学生委員一人一人にとって、大きな刺激となったようです。下記(※2)のURLより、インタビュー記事をぜひご一読ください。

(※1) 本学 100 周年記念事業の一環として、昨年 4～6 月に本学美術館にて「人間と核」展を開催。本企画展の詳細については、p.3「企画展示」をご参照ください

(※2) 美術館ホームページ URL : <https://sites.google.com/fwu.ac.jp/fwumoa/home>



学生委員からのコメント

学生委員2年目として去年の反省を活かし、今年は十分に活動を行った。今年初の取り組みとして、ホームページの運営を学び、アーティストインタビューも実行させ、学生委員企画を立ち上げることもできた。初めてのことが多かったのですが、うまくいかないことが多かったが、他の委員と協力し合い、ときにはぶつかり合って、一つ一つのことを着実に成し遂げることができた。ここでしか得られない学びができた1年間だった。(環境科学科2年 池上 麒麟さん)



▶ 西山夏実 写真展&映画上映会を開催しました

学生委員の企画・発案により、西山夏実氏(※1)の映画『今日も明日も負け犬』の上映会や西山氏のトークショー(※2)、西山氏撮影の写真の展示等を行いました。企画の実現までには、西山氏との打ち合わせやチラシの作成等、これまでに経験したことのない作業に取り組む必要があり、思うように進まないことも多かったようですが、美術館部門長や部門職員等の協力のもと、予定通りに企画を実施することができました。

トークショーは、司会進行を担当する学生委員と西山氏とで会話が盛り上がり、終始笑いの絶えない楽しい雰囲気です幕を閉じました。学外からの参加もあり、学生委員の皆さんは、今回の企画運営を通じて大きなやり甲斐を感じたようです。

(※1) 2003 年生まれ、福岡県春日市出身。起立性調節障害で苦しんだ自身の経験を基に高校の同級生らと制作した映画『今日も明日も負け犬』が、高校生を対象とする国内映画コンクール(「高校生のための eiga worldcup」自由部門)で最優秀作品賞を受賞。現在はフリーのクリエイターとして活動している。

(※2) 映画上映会やトークショーについては、p.4「ラーニング・コモンズ News」でも紹介しています。



学生委員からのコメント

企画を実行する過程においては、初めての学生委員企画ということもあり、チーム内の共通認識を描えながら進めていくことに難しさを覚えた。しかし、一度勝手に分かれば、問題なくこなしていけるような部分も多いと思うので、良い経験ができたと思う。大変に思うときもあったが、外部からわざわざ見に来てくださる方がいたり、嬉しいお言葉をかけていただけたときは大変励みになった。来年度も継続して活動していきたいと考えているため、今回得た反省を次年度にも生かしていきたい。(国際教養学科2年 広松 咲紀さん)

学生委員からのコメント

今年度は現在開催されている「西山夏実 写真展&上映会」を発案しメンバーと共に準備などを行った。発案から準備までの活動を通して、やりがいはいとても感じたが、その分負担がとても大きかったことが印象的だった。特に「見る側には伝わらないかもしれないけど気をつけたいといけない所」が数多くあり挫折することも多かった。しかし、自分が発案した企画は自分で終わらせるという熱意のもとに無事開催することができた。(国際教養学科2年 大河内 凜さん)



学生委員の皆さんが1年間の活動を振り返り、「私のリーダーシップ」というテーマで発表を行っている様子。(左から：池上さん、広松さん、大河内さん)



ランゲージ・カフェ活動をベースにした “学生自身による企画発信元年”となった2023年度

ラーニング・commons コーディネーター 金光 真美

2023年度のランゲージ・カフェは、英語・中国語・韓国語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・インド(テルグ語)カフェの7つが活動しました。ランチタイム毎に開いたカフェは、1年間の7カフェ総計で114回を数え、年度末の修了式では33名のサポーターが表彰されました。

本年度は、カフェ発足10周年を前に、ついにカフェで培った運営力を活かして、自らのイベントを実現しようというメンバーが現れました。これまでも学生の運営により、多くのイベントを開いてきたカフェですが、本年度の「日本って素敵じゃん展」(注1)「サホレ! 福女インド祭り」(注2)は、企画・発案自体が学生によるオリジナルのものであり、運営チームの立ち上げから自ら臨んだという点で特筆すべきものとなりました。運営チームはカフェメンバーにとどまらず、例えば後者では、インドカフェリーダーが代表を務めるインドカレー同好会からも多くの応援があり、そこでも新たな交流の広がりが生まれました。

注1)留学やランゲージ・カフェでの文化交流を通して気づいた、日本・福岡・本学の魅力を発信した体験型展示会。

注2)インド映画の上映を中心に、インド舞踊ステージなどインド文化紹介の単日イベント。

さらに、本年度4Qでは、かねてよりリクエストのあった「会話特化型カフェ」を、ランゲージ・カフェのサブプログラムとして試験的にスタートしました。

カフェメンバーの中から、提供者(ネイティブスピーカーや留学経験



8/21・22 日本って素敵じゃん展



9/23 サホレ!福女インド祭り

者など日常会話ができる方)と受講希望者を募り、日程調整後には全学アナウンスをし、さらなる参加を受け付ける形です。現状、英語・中国語・韓国語のみで、規模も小さいものの、参加者からは、これまでにない熱い支持を得ています。また、その趣旨に鑑み、これまでには見られなかった日本人学生から留学生への声かけに

も成功しているようです。

通常のカフェが開かれる、短時間のランチタイムではなく、1限分の長さを以て、会話に特化することならば、留学生の応援も依頼しやすいという学生の事情にもマッチした結果といえます。留学生の人数も復活しつつある今、次年度に向けて、こういった流れが継続できれば、カフェ創設当初からの目標の一つでありながら、なかなか継続的な実現がかなわずにいた日本語カフェ開催にも可能性がみえてきます。2024年度には、日本語カフェが生まれ、留学生にとっても、学生との交流から何かしらを楽しめるような場所となることを期待したいと思います。



1/19 ランゲージ・カフェ修了式(サポーター表彰式)

附属図書館の1年 ~2023年度に図書館・美術館にて実施した取り組みを紹介します~

- 4月
 - ・図書館内でのマスク着用が任意となる。また閲覧席の制限が中止され、座席数がコロナ禍前の水準に戻る。
 - ・図書館の利用規則の一部変更され、学生等の貸出可能冊数が増える。また2024年1月までの期間、試行的に本学学生による文献取り寄せが無料となる(1人につき1ヶ月3冊まで)。
 - ・学生主体の新入生オリエンテーション(ブースガイドス)に参加。
 - ・研究棟1Fの多目的演習スペースにて「Language Cafe」の新規イベントを開催。
 - ・美術館にて春の企画展「さかいようこ「人間と核」展」がスタート。
 - ・図書館中2F(下層)にて「森崎和江文庫」を公開。また本学創立100周年を記念し、図書館中2F(上層)に動物彫刻家 田代雄一氏の作品を複数設置。
 - ・本学創立100周年を記念するホームカミングデーのグランドフィナーレにて、ラーニング・commons企画「Let's celebrate our 100th Anniversary with Music! : 100周年をコスベルで祝う企画」を開催。
 - ・Language Cafe企画「先輩の留学ストーリー」をオンライン開催。
 - ・ファースト・イヤー・ゼミの一環として、新入生を対象とする図書館ツアーを複数回開催。

5月 ・「Language Cafe」の各カフェの活動がスタート。

- 6月
 - ・図書館1F BBCコーナーにて、ラーニング・commons企画「BBCリスニングリレー」を開催。
 - ・第1回 オンライン図書館ガイドスを実施。

- 7月
 - ・ラーニング・commons企画第1回、第2回「TOEIC講座 I」を開催。
 - ・企画展示「洋画家・野島山崎治氏をめぐる物語」が、図書館1F受付そばにてスタート。

- 8月
 - ・オープンキャンパスにて、900名を超える参加者に図書館をご見学いただく。また図書館1Fラーニング・commonsにて、模擬Language Cafeを複数回実施。
 - ・ラーニング・commons企画第3回「TOEIC講座 II」を開催。
 - ・第2回 オンライン図書館ガイドスを実施。
 - ・Language Cafe企画「日本って素敵じゃん」展を六本松のカフェにて開催。

9月 ・Language Cafe企画「サホレ!福女インド祭り」を本学内(大会館等)にて開催。

- 10月
 - ・美術館にて、スタチオポネ カリグラフィー作品展「文字の表情~羽ペンから活字書体へ~」がスタート。
 - ・「Language Cafe」の活動の一環として、Halloween Weekを開催。
 - ・ラーニング・commons企画第1回「TOEIC講座 II」を開催。

- 11月
 - ・図書館1F ラーニング・commons等にて「女性トップリーダー育成研修」を開催。
 - ・ラーニング・commons企画第2回、第3回「TOEIC講座 II」を開催。
 - ・本学美術館のカリグラフィー作品展「文字の表情~羽ペンから活字書体へ~」にちなんだ企画展示「西洋書物の美と歴史」が、図書館1F 円型書架にてスタート。
 - ・図書館1Fラーニング・commonsにて、図書館部門学生委員企画「ニュースで世界を知ろう!」(国内ニュース編)を開催。

- 12月
 - ・図書館1F 円型書架そばにて、図書館部門学生委員による企画展示「Books meet you」を開催。
 - ・「学生・図書館懇談会」をオンライン開催。
 - ・図書館蔵書点検の一部実施。
 - ・「Language Cafe」の活動の一環として、研究棟1Fの多目的演習スペースにて、学生企画のクリスマスイベント(Holiday Season Gathering)を開催。
 - ・図書館1Fラーニング・commonsにて、図書館部門学生委員企画「ニュースで世界を知ろう!」(国際ニュース編)を開催。
 - ・図書館1F BBCコーナーにて、ラーニング・commons企画「図書館に行こう!ホリデーシーズンイベント」を開催。
 - ・本学美術館のカリグラフィー作品展「文字の表情~羽ペンから活字書体へ~」の関連イベントとして、セミナー室にて初島さつき氏による「トーク&デモンストレーション」を開催。また美術館内にて「カリグラフィー体験:カリグラフィーでクリスマスカードを書いてみよう」を開催。
 - ・福岡市政だよりにて「森崎和江文庫」が紹介される。

- 1月
 - ・美術館部門学生委員企画として映画「今日も明日も負け犬」の上映会、監督の西山夏実氏のトークショーを図書館1Fラーニング・commonsにて開催。また美術館にて西山夏実氏の写真展を開催。
 - ・研究棟1Fの多目的演習スペースにて、「Language Cafe」の終了式を開催。
 - ・ラーニング・commons企画「"自学自習型"基礎英語文法復習プログラム」がスタート。
 - ・「Language Cafe」の活動の一環として、中国語・韓国語・英語にて「会話特化型カフェ」を開催。
 - ・野田宇太郎顕彰会(小都市)の会員の皆様へ「森崎和江文庫」をご見学いただく。
 - ・NHK Eテレ「あしたも晴れ!人生レシピ」にて「村上祥子料理研究資料文庫」が紹介される。

- 2月
 - ・図書館内、研究室等の蔵書点検を実施。
 - ・「Language Cafe」の活動の一環として、中国語・韓国語・英語にて「会話特化型カフェ」を開催。



福岡女子大学附属図書館ニュース

編集発行：福岡女子大学附属図書館

福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号

TEL&FAX : 092-661-2416 ホームページ : <http://www.fwu.ac.jp/lib/>